

◆平成29年度の食育推進計画推進に係る取組状況【県以外の主体の取組状況】

I 望ましい食習慣の形成に向けた食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 幼児等の健全な食習慣の形成	・毎日、朝食を食べる(準備する)習慣を身に付ける。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」を実践する。 ・家族全員又は誰かと一緒に食卓を囲み、楽しい会話をしながら食事をする機会を作る。	・子どもの食への興味と意欲や望ましい食習慣を育成するための取組を実施する。 ・家庭に対する食生活に関する相談や助言を実施する。 ・家庭や地域に給食を試食する機会を提供する。 ・子どもの口腔の健康づくりを行い、よく噛んで食べる習慣の形成に取り組む。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の形成に取り組む。	・学校教育活動全体を通した児童生徒への食に関する指導を実施する。 ・家庭に対する啓発活動、食育に関する様々な情報を提供する。 ・子どもの口腔の健康づくりを行い、よく噛んで食べる習慣の形成に取り組む。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を実施する。	・歯科医療関係者等による口腔の健康づくりの実施により、自分の歯で何でも噛めるように口腔の健康を保ち、よく噛んで食べる習慣の形成・維持に取り組む。 ・近所等に健康的な食生活に関する情報を提供する。 ・学校が開催する給食交流会などの食に関する行事へ参加する。	・飲食店での栄養成分表示を積極的に進める。	・乳幼児健診や各種事業を通じた子どもの健康と食に関する相談体制を充実する。 ・子育て世代(20～40歳代)が参加しやすい方法による健康や食に関する各種教室を積極的に開催する。 ・食生活改善推進員を養成する。 ・歯科医療関係者等と連携して住民の口腔の健康づくりを実施し、自分の歯で何でも噛めるように口腔の健康を保ち、よく噛んで食べる習慣の形成・維持に取り組む。	【事業者団体等】 ・食育に関する講演会の実施。 ・親子料理教室、食育教室の開催。 ・歯科医師会等の歯科関係団体が行政、学校その他の保健医療団体、8020サポーター等と連携し、地域において「歯と口の健康」、「噛むことの大切さ」を啓発。 ・食生活改善推進員団体、栄養士会等が地域において適量・適塩等の健全な食生活の定着に向けて啓発を実施。 ・栄養士会において子育て栄養相談、親子で学ぶ食育講座を実施。 ・岩手県食育推進ネットワーク会議において、保育所を訪問し、乳幼児期からの食育の必要性を伝える食育普及啓発キャラバンを実施。(県と共催) 【教育振興運動】 ・子ども、家庭、学校、地域、行政の役割と責任を明確にし、互いに連携しながら地域の教育課題解決のための取組を実施。 食育推進の取組事例 「餅つき・みずき団子づくり」(盛岡市) 「そば打ち体験」(八幡平市) 「生ワカメの茎切り体験」(田野畑村) 「生活習慣病予防講演会」(久慈市) 「栽培漁業センター見学」(洋野町) 「へっちょだんご・がんづき作り」(二戸市) 「親子料理教室」(軽米町) 【市町村】 ・乳幼児と保護者を対象に食に関する相談、手作りおやつ作り教室、離乳食講座等を開催。 ・「朝ごはんをしっかり食べましょう」パンフレットの配布、朝食の大切さの講話を実施。 ・食育講座(栄養士の講話、妊娠・出産期の食事のポイント等)、ヘルシー栄養教室等を実施。 ・かみかみ週間の実施、歯磨きシアターの実施。 ・企画図書展「健康も 楽しい食事も いい歯から」、「歯と口の健康相談会」を開催。 ・学校で栄養教諭等による食育授業を実施。	「古館保育所(各幼稚園・保育所)」として、次のとおり取り組んでいる。 「子どもの食への興味と意欲や望ましい食習慣を育成するための取組を実施する」 食育の取組…県内の保育施設のほとんどが畑づくりを計画に入れ、野菜の収穫や収穫物を使った調理体験が実施されている。野菜の種まき、苗の植え付けから生長を観察し収穫の喜びを味わい調理して食べる体験は、好き嫌いなく何でも食べる食に対する意欲になっている。 「家庭に対する食生活に関する相談や助言を実施する」 ・家庭で料理のレパートリーを広げられるよう「簡単レシピ集」「子どもの好きな給食メニュー」などを発行している。また、給食の展示も行っている。 ・増加する食物アレルギーの児童に個別対応をしている。また、食に対する相談事業や個別指導等で保育士と栄養士が一緒になり対応している。 ・肥満傾向のある児童について、保護者より相談を受けたり、急激な体重増加がみられる場合には声がけをしたりしている。 「家庭や地域へ給食を試食する機会を提供する」 ・誕生会に保護者を招待したり、祖父母参観で給食体験を実施したりしている保育所もある。 ・子育てサークル・広場等へ給食を提供しており、スタッフや参加者にとって良い刺激となっている。 「子どもの口腔の健康づくりを行い、よく噛んで食べる習慣の形成に取り組む」 ・離乳食や幼児食に移行する大事な時期に「かみかみごっくん」できるよう個別に介助している。また、食材の形状を変え対応している。 ・幼児期になり噛めない子や、噛まないで食べる子には個別に声がけをしている。 「『早寝・早起き・朝ごはん』の形成に取り組む」 ・早寝・早起き・朝ごはんの大切さを参観日や行事の中で話すとともに、食事日より等でお知らせしている。 「いわて生活協同組合」として、 ・若い子育てママを対象に、料理教育や離乳食の試食会等を開催。 「キャラ弁」「ケチャップ学習会」「きらきらステップ離乳食試食会」 ・親子で産地見学や収穫体験を開催し、若いママさんに産直品を知ってもらい、地場産品への関心を持ってもらうことができた。 「岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会」として、次のとおり取り組んでいる。 ・バランスのとれた食事 ・みそ汁塩分濃度測定による減塩普及活動 ・野菜あとい皿運動 ・子どもころからの薄味習慣の定着活動 ・高齢者の低栄養予防と単身世帯の孤食の改善
2 小学生・中学生・高校生の健全な食習慣の形成	・一日に2回は、主食・主菜・副菜が揃った食事を食べる(準備する)よう心がける。 ・自分の歯で何でも噛めるように口腔の健康を保ち、よく噛んで食べる習慣を身に付ける。 ・学校が開催する給食交流会などの食に関する行事へ参加する。 ・学校が実施する食生活に関する取組を参考に、健全な食生活を実践する。							
3 生涯にわたる健全な食習慣の形成								

Ⅱ 食の安全安心を支える食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 食の安全安心に関する知識の普及と理解の増進	・リスクコミュニケーションへの参加に努める。 ・食品表示や食中毒、食物アレルギーなどの食の安全について学ぶ。	・給食の時間や家庭科など関連する教科等の時間において、食品表示や食中毒、食物アレルギーなどの食の安全について学ぶ。 ・食品の生産・製造・加工、流通・販売に関して学ぶ。 ・リスクコミュニケーションへの参加に努める。			・リスクコミュニケーションへの参加に努める。 ・食の安全安心の確保に関する情報を分かりやすく、適切に提供する。 ・施設見学などの実施を通して、食品の生産・製造・加工、流通・販売の仕組みなどの食の安全安心に関する学習を支援する。 ・食品に関する情報提供を推進する。 ・食品表示を適正に行う。 ・関係法令の順守及びトレーサビリティに必要な取組(牛肉・米穀等の取組情報の記録・保存及び産地情報の伝達の実施)を行う。	・消費者に対し、食品表示や食品衛生等に関する普及啓発を行う。	【事業者団体等】 ・食品適正表示推進者養成講習会(食協主催)を受講(2回・134人) ・チキン協と岩手日報が主催し、小学生を対象に、鶏肉の飼育から製品に加工するまでの過程の学習と工場見学を実施。 【市町村】 ・食の安全安心(食品表示等)に関する講習会を開催。	「岩手県消費者団体連絡協議会」として、 ・岩手県消費者大会で食を考える分科会を開催 【テーマ】 「その食べ物、どこから来ている？ 輸入食品、産直を考える」 【講師】 岩手県農林連事務局長 岡田現三さん ・消費者問題シンポジウムin盛岡を開催 【テーマ】 「健康食品の適切な利用方法と広告の見方」 「岩手日報社」として、岩手県チキン協同組合と「見て・触れて食育交流」を実施。(10月18日、25日付紙面で特集) 9月6日 → 盛岡市巻堀小の児童がときめきファーム(盛岡市)を訪問 9月11日 → 洋野町林郷小をフレッシュチキン軽米(軽米町)が訪れ出前授業 それぞれの児童は鶏肉の生産や加工の現場を学び、食の安全安心への理解も深めた。
2 食品情報の提供と食品表示の適正化の推進	・食品表示を有効活用する。 ・牛肉・米トレーサビリティ制度により伝達された産地情報を、商品選択の参考とする。							

Ⅲ 食料供給県としての特性を生かした食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 農林漁業体験などを通じた生産への理解の増進	・生産現場の体験や生産者との交流により、農林水産業に対する理解を深める。 ・四季折々の家庭行事などで郷土料理や行事食をつくり、楽しく食卓を囲む。 ・県産食材や地元で取れる季節の食材を使った家庭料理を心がける。 ・祖父母や親から“我が家に伝わる料理”を積極的に学び、次世代に伝える努力をする。 ・食べ残しをしない。 ・食材は使い切り、料理くず等を出さないよう調理方法を工夫する。	・生産現場の体験や生産者との交流により、農林水産業に対する理解を深める。 ・行事や実習等の体験を通じて、幼児期から地域の食文化に触れる機会を提供する。 ・地元食材や県産食材、郷土料理や伝統料理を給食に取り入れる。 ・給食、お弁当を残さず食べる「もったいない」の習慣を培う。	・生産現場の体験や生産者との交流により、農林水産業に対する理解を深める。 ・農林漁業の体験活動を通じて、地域の食材に対する理解を深める。 ・地元食材や県産食材、郷土料理や伝統料理を学校給食に取り入れ、食に関する指導の生きた教材として学校給食を活用する。 ・家庭に対する啓発活動、情報提供を行う。 ・給食、お弁当を残さず食べる「もったいない」の習慣を培う。 ・食品ロス削減に関する理解を深める。	・農林水産業の多様な体験の機会を提供する。 ・地域行事や共食事業等の機会を活用し地元食材や県産食材を取り入れるとともに、郷土料理を食して伝える機会を提供する。	・農林水産業の多様な体験の機会を提供する。 ・食品廃棄物について、発生抑制と減量化により最終的に処分される量を減少させる。	・農林漁業体験学習に関わる関係者の連携を推進する。 ・食文化や郷土料理の継承に関わる関係者の連携、食の匠等による伝承活動のための環境づくりを推進する。 ・食文化や郷土料理を継承できる人材を育成する。	「いわて生活協同組合」として、 ・産直米交流会を開催。2産地3企画、77人参加 ・生協牛乳ふるさと訪問を開催。2企画 81人参加 ・産地交流や生産者による学習会、産直品を使った料理教室等も県内全域で開催 「盛岡大学」の授業として ・「地域食材資源論」の中で、農業研究センターでの短角牛の飼育とと畜場の見学及び岩大農場にて農作業の体験等を行った。 ・「応用調理学実習」の中で郷土料理を作らせるに当たり、地域の食材を学生自身に購入させることにより地域の豊富な食資源を認知させた。	
2 食文化や食生活の継承								

IV 地域に根ざした食育の推進

施策	皆さんに期待すること						取組状況	補足(委員)
	家庭	幼稚園・保育所	学校	地域	食品関連事業者	市町村		
1 食育推進運動の展開	・家庭等で食卓を囲む機会を充実させる。 ・親子や世代間におけるコミュニケーションを確保する。 ・買い物、料理、配膳の手伝い、食前・食後の挨拶等により、食に関する基礎を学ぶ。 ・学校や保育所、地域が行う食に関する勉強会や体験的な活動に子どもと一緒に積極的に参加する。	・食育だより、給食展示、給食の試食会等を通じて学校給食や食に関する指導内容等を家庭と共有する。 ・保護者会等を通じて食に関する指導を行う。		・関係機関と連携し、講習会、親子料理教室などの実施に努める。 ・若い世代をはじめとする食育関連のリーダーの育成に努める。	・食育の理解を深め、各事業者の事業活動等特色に応じた食育活動を進める。	・食育を推進するための組織づくりや市町村食育推進計画を策定する。 ・市町村食育推進計画に基づき、学校や保育所、地域などと連携し計画的に食育の施策を展開する。 ・ホームページ、広報等を通じた食育の情報提供を行う。	【事業者団体等】 ・岩手県食育推進ネットワーク会議において、県民の食育への理解と関心を深めることを目的に、食育標語コンクール及び食育推進ポスターコンクールを実施。(県と共催) ・岩手県食育推進ネットワーク会議において、全県的に食育運動を展開することを目的に、食育推進県民大会を開催。(県と共催) 【市町村】 ・食育月間にあわせて食育講演会、食育研修会等を実施。 ・学校で給食だより等による食育指導、調理実習や食育の講演を実施。 ・学校給食で毎月19日の食育の日メニューの実施や食に関する指導を実施。 ・ホームページや各広報誌等で食育を普及啓発。	
2 市町村や地域における食育の推進								